

「人生の交差点」～無料のタウン誌です。ご自由にどうぞ



2025年冬・83号

信条・世に媚びず・粋にとらわれず
・言いたいことはハッキリ言おう

発行／馬場 雅夫

FAX：06-7879-6372

〒110-0015

東京都台東区東上野 3-26-10 FC204号

URL：https://lifecrossing.ne.jp/

E-mail：info@lifecrossing.ne.jp

人生・生活・命の交差点／季刊（創刊 2001 年）



記憶に新しい道頓堀宗右衛門町8月18日のビル火災。消火活動にあたっていた消防隊員2名が殉職した。インバウンドが溢れる道頓堀も、この日だけは沈鬱な趣で、多くの人々が相合橋（あいあうばし）で花を手向けていた。右側に見えるラーメン店『一蘭』の真隣で火災発生。向こうに見えるのは戎橋（えびすばし）。その先、左には観光名所として有名なグリコの看板がある。

CONTENTS

世の中・社会・文明・歴史・家族・自分のことを書いています。

視点 二代表制を活かすために
追認機関から【挑戦する議会】へ
新潟 三条市議会議員 竹山 よしかず…2

永遠の軍事バランスは不可能！
世界連邦による恒久平和実現を！ 東京 三田 栄考…3

毛虫の命 大阪 中央区 原野 通有…4

昼は医者稼業、夜休日は反逆老人、時にはがん患者（前）
世なおし埼玉県民の会 沖縄の闘いに連帯する関東の会
埼玉協同病院消化器科医師 辻 忠男…5

1億分の1、それが今の日本に住む私自身の存在です
大阪 藤井寺市 区長 松井 学…6

人を動かすのは「ひととなり」
立憲民主党で残念に思うこと 大阪 田淵 豊…7

最後の幕臣「小栗上野介」（下）
2027年大河ドラマ化決定 主演・松阪桃李
新潟県三条市 丸山 善三…8

奇跡の日に、愛溢れる南の島でウミガメ9匹と出会った話
映画監督、画家 増山 麗奈…9

アリアの彼方へ 魂の行方を思いながら
東京 東久留米市 奥寺 大輔…10

ミラボー橋の夕焼け 東京 荒野の年金生活者 宮内 醉祥…11

選挙は「その日」だけじゃない
市民の声が続く場をつくるために
選挙マルシェKOTO代表 恩田 扶美…12

問題の根源はどこにあるのか？
誤情報について 東京 会社経営 岡山 暁生…13

人々の小景② 木下恵介
堀田善衛ーリベラルな透徹した眼で、
時の流れを見続けた作家ー 鎌倉 市川 隼…14

エッセイ「対岸」野口文子／編集余話／編集後記……15

長生炭鉱問題を問う 日本人ファーストに与しない
社会民主党参議院議員 ラサール石井…16

視点



二元代表制を活かすために 追認機関から「挑戦する議会」へ

新潟 三条市議会議員 竹山 よしかず



日本の地方自治は、市民が首長と議員の双方を直接選ぶ「二元代表制」に支えられています。首長は行政の執行を担い、議会は条例制定や予算審議を通じて政策を方向づけ、行政を監視する——本来は緊張関係を保ちながら地域社会を前進させる仕組みです。

しかし現実には、地方議会が首長提出の議案をほぼ無修正で可決する「追認機関」と化しているとの批判が少なくありません。首長提出議案の可決率は多くの議会ではほぼ100%に達し、形式的な質疑に終わる例も目立ちます。背景には、議員の政策立案力不足や人員・時間的制約、会派運営による少数派の発言抑制、そして住民の関心低下が複雑に絡んでいます。

実際に我が三条市議会、私自身の一般質問においても、私の質問した内容に関する施策が、答弁では直接触れられ

ず翌日に突如として実施される事案がありました。これでは、「首長の議会軽視」と受け取られても仕方ありません。

こうしたことが起こる要因を、上記で述べた議員の政策立案力不足「だけ」に求めて解決し得るのでしょうか。そもそも首長（理事者側）から「正確かつ十分な情報」が与えられない現状では、議員の政策立案力を向上させる云々以前の問題であると考えます。



二元代表制という素晴らしい政治機構・政治システムが、現実離れした理想設計となっているのではないかと……ということを逡巡しながら、日々の議員活動を行っている現実であることは否めません。とはいえ、この現状は決して不変ではありません。各地で始まっている改革の動

きは、地方議会が再び「市民の代表機関」として輝きを取り戻す可能性を示しています。

第一の可能性は、「議会の自立的な政策形成力の強化」です。近年、議会が独自に条例案を提出するケースが増えています。たとえば子育て支援、地域交通の維持など、首長提案に先立って議会発案の条例が制定された例が各地で報告されています。これらは行政任せではなく、議員自らが調査・勉強を重ねた成果です。議会事務局に専門スタッフを配置したり、外部有識者を交えた政策研究会を常設化する自治体も現れ、議会が独自に政策を練る力が確実に高まっています。

第二の可能性は、「情報公開と市民参加の拡大」です。議会基本条例を制定し、定例会ごとに議会報告会を開く自治体が増えています。オンラ

イン中継やSNSによる情報発信も広がり、傍聴できない住民でも議会の議論を見守ることが可能になりました。こうした取り組みは、市民が議員をより身近に感じ、議会活動への関心を取り戻すきっかけとなります。

こうした改革の先にあるのは、首長と議会が建設的に競い合う健全な緊張関係です。議会が独自の政策提案を持ち、首長と公開の場で議論を交わすことで、施策の質は高まります。対立を恐れず、議論を重ねることが住民自治を深める第一歩です。

もちろん、市民の役割も欠かせません。議会改革は議員だけでは成し遂げられません。傍聴、意見提出、地域集会への参加など、日常的に議会と関わることで「議会は見られている」という緊張感が生まれ、議会は住民生活により即した提案を行えるようになります。

市民が声を上げ、議員を選び、そして選んだ後も注視し続けることで、議会は首長に対して本来のチェック機能を果たせます。

二元代表制は、首長と議会がともに市民から直接選ばれるという、世界的にも特徴的な制度です。その強みは、行政と立法が互いを磨き合う「対話」にあります。追認機関という批判を越えて、地域の課題を自ら掘り起こし、首長とともに解決策を競い合う——そんな挑戦する議会へ。

他の地方都市同様、人口減少をはじめとして、それに起因した多くの課題に直面している三条市。こうした時代だからこそ、首長と議会における良い意味での「建設的に競い合う緊張感」が三条市に求められています。その実現に向けて、私も議員という立場から力を尽くしてまいります。



市政報告会「語り場」
三条市総合福祉センターにて

永遠の軍事バランスは不可能！ 世界連邦による恒久平和実現を！

東京 三田 栄考

先日、「安全保障問題に関心がありますか？」という調査電話がありました。

私が「日本の安全保障問題には強い関心があります」と答えると、調査員の方は「それでは、トランプ大統領が言うようにGDP（国内総生産）の5%でしょうか？それとも3%くらいで……」と続けました。

私は「そんなに軍事費を増やすと中国を刺激してしまい、相手もさらに警戒して軍備増強するから危険ではないでしょうか……」と答えました。

すると調査員の方が「それでは安保問題に関心がないのですね！」と言うのです。現世界状況下において軍備による安保を否定しませんが、平和外交的安保政策を具体的に進める努力が殆ど為されていません。

大谷の活躍に喝采するなら日中・日ロいや日朝のスポー

ツ交流の努力の安保も重要でしょう。軍備増強によるよりも、平和外交の方がはるかに有効だし、財政難の日本にとって安上がりの安保政策になるのです。

軍備競争の矛盾・抑止論への疑問

皆さんも「矛盾」という言葉をご存じでしょう。古い時代の中国楚の国の古話で、完全な矛（ほこ）も完ぺきな盾（たて）も存在しません。

中国が空母を建造すれば、日本も護衛艦をヘリコプター搭載機に改造します。ステルス戦闘機を発着艦できる空母化すれば、相手に3番艦、4番艦を建造する口実を与えます。日本が敵基地攻撃ミサイルを配備したり、中国に近い南西諸島にミサイルを配置したりすれば、相手もそれに対抗してきます。

このような軍備競争の延長

線上には「安上がりの核保有」という議論も出てくるのです。いつも不思議に思うことがあります。抑止力を主張する人々は、軍事力の必要性ばかりを強調します。



OR



口にしませ
ん。彼らの
口から平和
の尊さを聞
いたことが
ありません。
抑止力と
は力のバランスです。しかし、その先はどうなるのでしょうか？

いつまで軍事力のバランスを続けるつもりなのでしょう？ 五十年？ 百年？ まさか永遠に軍事力バランスを維持できるとは言わないでしょう。その間に核保有国は増え続けるでしょう。被爆国が核保有を言い出したら、世

界中の国が核保有に向かい、ただでさえ困難な核縮が永遠に不可能になります。

平和省の提案

トランプの国防省の名前を戦争省に改めようとしているニュースにはびっくりしました。これでは軍人たちは益々戦争を正当化するでしょう。これだけでノーベル平和賞失格です。パングラデシユのユヌス暫定政府首長や自民党の元幹事長・中川秀直氏の主張のように、平和省を創設し、軍事予算の10分の1でも良いから緊張緩和・融和・友好の活動を行った方がノーベル賞に近いでしょう。

世界連邦への展望

国権を掲げ、愛国心を煽ることは、国家を滅ぼし、国民に災禍をもたらす結果になることを冷静に理解する必要があります。戦争が起こる大きな原因が、国と国境の存在であることは明らかです。

EU（欧州連合）およびNATO（北大西洋条約機構）加盟国の間では、もはや戦争

は起きません。この仕組みを世界に広めていくべきです。

百年後に世界連邦を建設できるような方向に、人類は努力すべきです。かつて世界連邦が議論された時期がありましたが、近年は誰も口にしなくなったのが不思議です。

オリンピック、万博、自由貿易、国連、WHO、ユニセフ、ノーベル賞、世界遺産など、世界融和の環境をどんどん広めていけば、戦争のない世界に近づけるのではないのでしょうか。最も罪の重い犯罪が殺人なのに、人殺しの訓練をしたり、戦争で活躍したら栄誉とはどうしてなのでしょう。

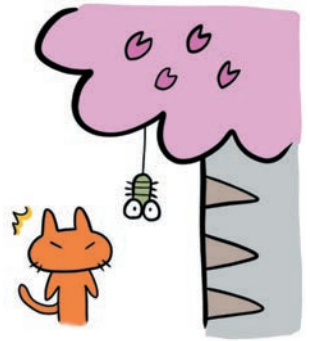
一番賢い動物たる人類が大量殺人兵器を生み出し、今、その扱いに苦慮しています。

人類の恒久平和には世界連邦を『百年後を目標に建設』する努力しかないと思ひます。



毛虫の命

大阪 中央区
原野 通有



実はこのタイトル、およそ半世紀以上前に私が友人達と作った同人誌の創刊号に書いた小品のタイトルでもある。私の周りに起こったある事件を発端に2人の友や（当時学校で葦の会なる討論会を作っていた）校外にも呼び掛けて原稿を募った。『若筍わかれ』と誌名を付けた。約四年間、延べ百余名に向けて、十五号ほどガリ版印刷で発行したが、いずれ矢は折れ、活動を閉じることにした。

今回、何故だか同じ題で書いてみたくなった。自分がど

れだけ成長したのか？ 思考が変わったのか？ 変わらないのか？

サテ、本論に入る。「冗談じゃない、俺の命は毛虫なんかと比べ物にならないくらい、較べることにすらおこがましい」と私なら思う。が、彼、毛虫側ならこう答えるだろう。「自分にとってはお前の命より自分の方が大事なのに決まっているだろう」。つまり、毛虫も私も同じ対等、平等な命であると主張したかった。その気持ちは当時も今も、いや、今の私の方が強い気持ちがある。



神や仏が特別に地球上に人を送り出したものではない。だったら人間や猫・犬も熊も同じ動物。いや、鳥や魚も同じ命だ。すると、昆虫、蚊や蟻も同じ命ではないか？ となるとバクテリアや細菌も同じかな？ 止まろう、明らかな意志のある生物まで同じ命としよう。そうなる植物も除外して良からう。

幸か不幸か、人類は他の生き物に較べて拔群に正に拔群に智力があったから、人類は生命体の頂点に立ってあらゆる生物を支配出来ているわけだ。いや違う。人類が生誕した頃は他の動物と激烈な食うか食われるかの争いをしていたことだろう。言葉を話せるようになって、道具を発明するようになって、動物に勝てるようになった。しかも、彼らを捕まえ食するようになった。

遂には養殖などと称して人間の必要とする生物を生み出すようになった。昔は高級品の鶏卵も、今ではまるで生産工場の如く鶏の大群が自らが食べられる為にしきりに餌をついばむ姿を鶏舎でみる。食肉用鶏舎では1000㎡で1万羽ほど買っているそうだ。彼らが狭いと文句を言わないことを良いことに1㎡に10羽詰め込んでいるそうだ。もし神様がおられるなら『汝、人間よ！ 我が子たる生物にそのような扱いをするなら、人類は地獄に墜とすぞ！』

私は自己満足の趣味の魚釣

りをしない。釣った魚をピチピチと元氣よく跳ねるのが心地良いと釣り人は言う。そうじゃないでしょ。魚は

断末魔の苦しみで跳ね回っているのですよ。もし、針に釣られてくる魚の表情を看取れるなら、苦しそうな恨みの顔でその晩眠れないでしょう。かつ井屋の看板に豚の楽しそうな顔が描かれているのに驚いた。ここの親父はなんて人の、いや違った豚の気持ちを理解してやらないのか。私だったら自分を食べる人間に対し腹立ち、憎み、苦々しい豚の顔を看板にする。



パリの食肉解体場

私は若い頃にパリで牛の食肉解体場を見学したことがある。木で囲まれた柵の入口では前に動いても、現場に近づくと雰囲気を感じて彼らは前に行こうとしない。その場ではまず屠畜銃を肩間に打込み失神させて……。ここでやめておこう。皆さんが美味しい

すき焼きを食べられなくなるから。調べたら今の日本も同じ手法のようだ。ネットで読むことができますよ。

なんて罪深い自分だろうと日々悔やんでいる（と言えば嘘になるかな）ベジタリアンたる「動物を食べない」友人を知っているが、彼は魚は食するとか。どちらにしても私がこれまで生きてくるためにどれだけの命を奪ってきたことか。本当に悔やむなら早く自殺すべきだと思っているが、なかなかその気になれない。これまでどれだけの命を食してきたことか。

何千、何万で利かない。何十万、何百万、魚卵をいれたら何億もの生命をいただいている。でも牛肉はうまいと思いい、寿司も食べたい。仕方ないな。カブト虫は可愛いとって籠に入れ、蚊が飛んでくるとびしゃつと殺す。何て身勝手な輩なんだろう。

いずれ命を食しない未来の食物ができるまでは許してもらおう。だったらせめて人間同士は殺しあうのは止めにしよう。人間のために命を供してくれる生き物の為にも。

屠殺とは、食肉用や皮革用の家畜など動物を殺すことを指しますが、屠殺、屠殺場、屠殺人といったワードは差別用語にあたるとして、放送禁止用語となっています。共同通信社が発行している『記者ハンドブック』（記者向けに記事の書き方、表記ルールなどをまとめた本）でも、屠殺を含むワードは差別語・不快用語に分類されています。屠殺の言い換え語としてメディアが使用しているのは「食肉解体」や「食肉処理」など ※芸トビより

昼は医者稼業、 夜休日は反逆老人、 時にはがん患者(前)

世なおし埼玉県民の会
沖縄の闘いに連帯する関東の会

埼玉協同病院消化器 辻 忠男



【自己紹介】

本日(8月7日) 77歳の誕生日、自分でいうのも何ですが、年の割には元気な後期高齢者。出身はG県M市、高校卒業後W大政経学部に入學したものの、「政治の季節」にすっかり飲み込まれ、在学4年時ふと気付いたら、あときつちり3年間勉強しないと卒業できないことが判明。ええい、しゃらくさい!と仲間多くと一緒に中退の道を選択した。

その後先輩の紹介で新宿花園神社界隈にて慣れないバーテン業を半年、「お進学塾」で家庭教師を半年務めた。K大志望のエリート小中学生の勉強相手をする内、ふと試しにもう一回受験勉強して人生設計やり直すかという「邪念」が湧いた。

相方に進路相談したところ、曰く「あんたのアジター

【昼の医者稼業の部】

現在の職場は川口市の埼玉協同病院消化器科で、専門は肝胆膵疾患の診断・治療、慢性膵炎・膵石症の内視鏡治療である。症例数では、常に本

邦トップクラス(少々自慢タラタラで恐縮)、膵石の治療を希望する患者は海外からも入院する、モンゴル、ベトナム、バキスタン、フィリピン、マダガスカル等から。ここで膵石治療にまつわる小話の一つ。

マダガスカル島から来た黒人のL君(彼はセネガル語・日本語・英語に精通している)；入院するなり日本語で不安そうに訊いてくる「先生、私ノ膵石ハ治リマスカ、私助カリマスカ?」私「マダガスカル島からよく来てくれた、大丈夫任せなさい、(咄嗟に)君の病気はマダガスカル?」



一瞬間を置いて、二人で顔を見合わせ大爆笑! 日本語の即席駄ジョークも理解する聡明な頭脳の持ち主である。そして無事に治つて年に何回か診察に来日している。

膵石治療数は1080例と本邦で最多、しか

し皆さん何で膵石が出るほど酒飲むんだ!

今の病院は450床と中規模、現在増床改築中で工事の騒音が喧しい。77歳は院内最高齢の現役医者の一人、息子より若い医師・研修医、ほぼ孫年齢の看護師と仕事をする毎日である。

あと何年今の仕事を続けられるか。貴重な治療上の体験を与えてくれた、患者さんの努力に報いるためにも、今後論文にして世界に発信せねばなるまい。行くとこまで行け、遠くまで飛ぶんだ!

【がん患者体験の部】

「悪夢」のICU症候群



(↑)私の直腸がんのバリウム写真

まさに「何とかの無養生」で、この数年検診を受けたことがなかった。自分の外来ではひたすら「年に一回は市民検診やってくださいね!」と言っているのに…。

元々私は肛門部に難が有つて、今まで2回肛門周囲膿瘍で小手術を受けていた。昨年9月、突然便に鮮血が混じった、痛みなし。また以前のものが起こったか、と高を括くっていた。その後も時々出血、息子にこのことを話すと、「父さん、すぐ見てもらったほうが良いよ、癌だといけないう!!」と諭され、しぶしぶ翌週自院で大腸内視鏡を受けた。仲間の大腸内視鏡医は観察するなり

「いけませんね、進行直腸がんです、内視鏡治療は出来ません、手術ですね。」の判決であった。

家族の心配顔が、この時実にありがたいた身に浸みた。老いては子に従え、親身の肉親の説得程効くものはない。早速前任地の友人の外科医に手術を依頼した。5年前に新築された真新しい外科病棟に半月後入院、外来にも病棟にも顔なじみのスタッフ・看護師さんがいて、同窓会の雰囲気何の心配もなく翌日5時間程の手術を終えた。

(以下、次号に続く)

辻忠男医師プロフィール：慢性膵炎・膵石の内視鏡治療実績堂々の全国1位(2020年現在)。世界でもトップクラスの実績をもち、国内はもちろん遠くアフリカからも患者さんがやってくる。大学闘争の真っただ中に文系を中退、バーテン・家庭教師を転々とするも、ひょんなことから医者への道へ。G大学付属病院、F赤十字病院、S市立病院を経て現職に。一方で夜や休日は人権や平和を守る熱き運動家の一面を持っています。

1億分の1、それが 今の日本に住む 私自身の存在です



大阪 藤井寺市 区長 松井 学

お米の数に例えるならば、1億粒の中の一粒ということになりますでしょうか。

一粒の重さは約0・02グラム(0・03グラム程度です。1グラムにも満たない、このまことにちっぽけな1粒ですが、その1粒の中には、それぞれの喜怒哀楽・人生・人格・人権等がギッシリと詰まっているんです。

そして、その一粒のお米が1億粒集まれば約2トンの重さになります。2トンのお米といえば、5kg入りの袋が400個分の数と量になります。

権力者はたった10グラム

これを国の政治に例えるならば、その400個分(2トン分)の生活やあり方を決めてしまうのが、たった一握り

の権力者達です。米粒でいえば約500粒、重さにすれば約10グラム(15グラム。ちょうど10円硬貨1枚(1枚半の重さ)。

このたった10グラムの人達が2トンの国民を牛耳る。この10グラムは全知全能の神ではないのです。もし、この10グラムが粗悪品だったら、止めどもなくとんでもない方向にも導いてしまう。これが今の政治の姿なんです。

歴史が証明する危険性

歴史をご覧なさい。ヒトラー、スターリン、毛沢東、ネタニヤフ、プーチン、彼らがやらかした所業や、彼らが作り上げたシステム・構造は最悪です。

人が皆でチェックできないシステムなんてそもそも間違いないんです。

真の民主主義システムの構築を

ですから、国民が粗悪品の10グラムを選んでしまう前に、粗悪品かどうかを国民の皆が見定める期間を設ける。それ

でも粗悪品をつかまされたら、返品できる。そして一握りの彼らが決定を下す過程に多勢の国民が声を上げられる。このようなシステムを構築すべきです。私達一粒一粒の命・人生・生活がかかっているんです。これらのシステムが構築されてこそ本当の意味での民主主義政治が実現されるのです。

市民参加条例の創設

市民が行政に対して声を上げられる。このことを担保する条例。条例Ⅱ市民参加条例を創ろうとしています。※幸い条例は法律と違って地方自治体で制定することができ、憲法94条。

今そこにある危機！

もし、あなたの家族に、その身体・生命・自由等を脅かす危機が降りかかれば、あなたは、どうされますか？
何の躊躇いもなく、瞬時に危機の排除に取り掛かることでしょうか。

同様に、国民の生命や自由に危機が降りかかった時、

国・政府・政治家達の役割は、即時に国民の危機を排除する、そこにこそ、その存在価値が問われるのではないのでしょうか？

世襲を続けて百年議席を温める、そんなところに存在価値があるのではないのです。

福島・能登の災害こそ現実の危機

福島の災害、能登の災害、これこそ今そこにある危機なのです。今そこにある危機を救えずして、政治家として何を語るのですか？何を為すのですか？

政府や政治家達は、もっともらしく福島の惨状や能登の惨状を口にします。日本の国土の1割を放射能汚染で駄目にし、10万人以上の国民を仮設住宅に住まわせ、難民状態同然にしながら、なお原発を続けようとする。

それで、「国民の事を思っています」「国民の生活を良くします」「国民の幸福を願っています」だのと、どの口で言うのですか？

今の危機を救えずして

何を語る

福島の惨状は、正に今そこにある危機なのです。この危機を救う手立ても出来ず、いくら「国民を大事に思っています」だの、「国民の将来の事を思っています」だのと、言っても、そりゃ嘘です。

今、危機に直面している命を救えず将来の国民の命を救えるはずがありません。昔から、命あつての物種と言います。それなのに、何よりも大切な国民の命を後回しにして、何を語るのですか？

この様な体たらくな政治をしていて、恥ずかしくないのでしょうか？ その胸に光るバッジは何を意味しているのでしょうか？ まさか厚顔無恥？

コメント(その昔、ゲイリー・パー演じた映画「真昼の決闘」では、町の為に命を賭して孤軍奮闘する主人公の胸には銀の星が輝いていました。光ると輝くのの違いです。人間はもともと不完全な生き物なんです。その不完全な生き物が、やらかす行動を国民が……。

人を動かすのは「ひととなり」 立憲民主党で残念に思うこと

大阪 田淵 豊

かつて、体たらくの自民党

を下野させ、政権の担い手であった立憲民主党が、いまはその見る影もありません。昨今の立憲民主党を見る限り、野党第一党であるとは思えないほど、その勢いはなくなっています。

時代の趨勢もあるのでしょうが、私（保守）の立場から、足りていないと思うことを書くように思います。またこの足りていないと思うのは立憲民主党だけではなく、すべての政治家に当てはまるかもしれない。よって今稿はすべての政治家に申し上げたい言葉と捉えて頂ければ幸いです。

どの政党も政治家も、自らの意見に賛同してほしい。応援してほしい（票がほしい）と活動しています。よってさまざまな呼びかけをするわけですが、元々シンパである人以外をどうやって自分に共鳴してもらえるか、常日頃模索

しています。

ここで大事ななのは、政策の中身もさることながら、人を動かすのは「ひととなり」である、という点です。

信念が見えるかどうか

十年ほど前、元外交官で左派の代表的著名人であった孫崎享氏は、自身がパーソナリティーを務める『おはよう寺ちゃん活動中（文化放送）』の最終登場回で、立憲民主党他野党の国会ポイコットに対して「議論もせず国会をポイコットするとは何事か。議論してこそその野党である」と痛烈にその姿勢を批判しました。

普段は「孫崎が担当する曜日は（放送を）聴かない」と言っていた保守系のリスナーも、この最終登場回には感心し「孫崎は信念の人であった」と述懐しています。思想信条が違っても、筋を通して信念を語る姿勢には、人を納

得させる力がある。ここにこそ「ひととなり」の大切さがあります。

政策よりも先に必要なもの

政治家はしばしば「政策の中身」を強調します。もちろん政策は必要です。しかし、同じ政策を語っても「この人なら任せられる」と思わせる人物と、「また口先だけだな」と思わせる人物がいます。違いを生むのは「人柄」「信念」「生き方」です。

武士は食わねど
やせ我慢



たとえば災害時に現地へ駆けつけ、泥にまみれて住民と一緒に動く政治家を見れば、人は自然に信頼します。逆にテレビカメラの前だけでポーズを取る政治家には、心が動かない。立憲民主党の多くの議員は、どうしても後者のイメージが強いのです。

与党の「慢心」より 野党の「空虚」

自民党には長期政権ゆえの慢心があります。汚職や派閥抗争など、国民から見れば目を覆うものも多い。それでも自民党が政権を保ち続けられるのは、野党がそれ以上に「空虚」に見えてしまうからです。批判ばかりで代案が弱く、何より「この人についていきたい」と思わせる人材が乏しい。

野党が本当に政権を奪うためには、「自民党が嫌だから」ではなく「この人なら信頼できる」と国民に思わせる人材がいてこそ実現します。

「人を口説く」原点に戻れ

選挙とは、究極的には一對一の「口説き」です。街頭で、対話で、SNSで、いかに相手に「この人の言うことをもっと聞いてみたい」と思わせるか。人を動かすのは、緻密な政策集よりも、その背後にある誠実さや情熱です。

たとえば演説一つでも、「言わされている原稿」か

「心の底からの叫び」かは、聞き手に必ず伝わります。立憲民主党の多くの演説は、残念ながら前者に聞こえてしまう。逆に信念を持って堂々と語る姿を見れば、保守層であっても「今回は応援してみるか」と心が揺らぐのです。

最後に

人を動かすのは「ひととなり」です。理念や政策ももちろん重要ですが、それを語る人間に「筋が通っている」「信念がある」「損得抜きで動いている」という印象がなければ、人の心は動きません。

立憲民主党が再び政権を目指すのであれば、まずは議員一人ひとりが「自分はどう生き、どう語るか」を問い直す必要があります。批判やスローガンだけでなく、自分の人生をかけて信念を示す政治家が出てくるとき、はじめて国民は本気で耳を傾けるでしょう。

その日が来ることを願いつつ、今はただ「残念」と言わざるを得ません。

最後の幕臣「小栗上野介」(下)

2027年大河ドラマ化決定 主演・松阪桃李

新潟県三条市 丸山 善三

最終回(下)では、小栗が事業を成した転機とは、何であつたのかを検証する。

転機1 遣米使節団として日本の国益を主張

小栗が、一八六〇年(万延元年)、遣米使節団としてアメリカを訪問した際、多くの見聞を得た。そのひとつが、

日米修好通商条約で日本側の懸案であつた日米通貨比率問題の解決である。既にアメリカ側は、ドル金貨は不純物が多い事を承知していた。結局、小栗の理路整然とした交渉によりアメリカ側に非を認めさせた。そして、この交渉でアメリカ側は、日本人への捉え方を変えることになっていく。勿論、小栗自身も大きな自信となった。

転機2 西欧の鉄を知る

(近代工業化への構想)

遣米使節団にとってワシ

トン海軍造船所の見学は、衝撃であつた。この見学によつて小栗は、蒸気機関を原動力として鉄を鍛える姿、鉄を加工して船等を製造する工程を会得し、近代化構想を描くことになる。それらは、後の横須賀造船所の建設につながつた。

転機3 栗本鋤雲とヴェルニーとの出会い

小栗の転機を語る上では、二人の人物との出会いがあつた。小栗の生涯の盟友とされている栗本鋤雲と、横須賀造船所の建設に際し、造船、工場運営を惜しげもなく教示したフランス人ヴェルニーである。

黒船来航は、日本がグローバルイズムの波を受けた出来事であつた。日本近代化の火付けは、一六七年前、一八五八年(安政五年)のアメリカとの日米修好通商条約の締結に



端を発する。幕府は、アメリカに続いて、オランダ・ロシア・イギリス・フランスとも同様の条約を結んだ(安政の五か国条約)。実際は、関税自主権を欠き、治外法権を認める片務的な不平等条約であつた。これは、後の明治政府にとって条約改正という問題をはらむこととなつた。国内では、開国、攘夷の



小栗上野介忠順
(おぐりこうすけのすけただまさ)

議論の真只中で、国政が定まらない空転状態であつた。難事において重要視すべきことは、現場に即した状況判断をして、解決への実行力を発揮できるリーダーが存在するかと筆者は考える。

以上の事実から、小栗上野介は、難局の幕末期、遣米使節として海外に接触し、「見聞力」を養い、「行動力」を

発揮して、我が国の近代化に貢献した。その実践者が、まさに「悲劇の幕臣」小栗上野介であつた。

小栗は、一大事業である横須賀造船所の建設に際し、栗本鋤雲の協力を得て、ヴェルニーによりフランスの高度な工業技術を取り入れ、日本で最初の生産工場を立ち上げた。彼が、志を遂げ、近代化への礎石となつた道のりは、決して安易ではなかつた。少年期に死に物狂いで勉学を極めると共に、将来の国家観を見据えながら挫折も経験した。それらは、後の海外の見聞体験と共に国際的な見地に立つて実践された。

敢えて表現すると小栗は、「至誠を貫いた最後の幕臣」であつたといえるのではないだろうか。彼の利点は、貪欲に学び続け、実行することに対するの矜持にあつたといえる。当時、多くの海外派遣者が存在した中で、小栗が傑出した才能を開花させた根底はそこにあつたといえる。

小栗は維新を見ることなく非業の斬首に処せられた。明治政府は、小栗の末恐ろしさを危惧していたのかもしれない。

い。一般的に小栗のようなその時代での反体制的とされた敗者は、歴史の襞に隠されていて見えにくいものなのである。

以上、幕臣、小栗上野介忠順について三回連載でその生きざまを述べさせて頂いた。後に西郷隆盛と共に「大政奉還」を成し遂げ、歴史上の功績を上げたと言われる勝海舟その人物は、よく小栗上野介のライバルとして登場する。二人の関係性は、大河ドラマ「逆賊の幕臣」の中で詳しく現わされるであろう。

折角の番組化の機会である。NHK大河ドラマでは「悲劇の幕臣小栗上野介」の生涯が史実に基づいて正しく映像化されることを期待したい(了)



小栗上野介の斬首の地
(高崎市烏川の水沼河原)

小栗上野介は幕臣でも薩長よりも開明的であつた。遣米使節団に抜擢され、米国の最新技術や制度を見聞して日本の近代化の必要性を痛感し横須賀造船建設、仏語伝習所や日本初の株式会社(兵庫商社)の設立、仏式軍隊の導入や郵便制度・新聞発行の提唱など多岐に渡って活躍した。だが小栗の功績は現代多くを評価されていない。小栗の実行力を恐れた薩長の手で隠棲さきの群馬倉倉淵にて無実の罪で斬首された。

宮古では亀は神の使いとされていて、出会うと運氣が一緒に上がるそう。願いを唱えると夢が叶うとも言われているらしく、ここでちょっと読者のみなさんにも幸せのお裾分けを。

これまで温泉宿や博物館で

初シュノーケルで海に潜って1時間で海亀9頭に出遭ってしまった。令和7年7月7日。ラッキーセブンの日に海亀9頭と遭えるなんて奇跡だ。

映画監督にして画家 増山麗奈の駆け巡り!



第25話

奇跡の日に、愛溢れる南の島で ウミガメ9匹と出会った話

見た剥製の海亀は、硬くて立で、どこかお爺さんのような風格があった。でも実際にティファニーブルーの海で20センチほどの距離まで近づいてみたカメラたちは、想像以上に無邪気で、まるで猫みたいに愛らしい存在だった。

兄弟みたいにじゃれ合ったり黙々と海藻を食べたり、本当に幸せそう。目が合うと、つぶらな瞳がキラキラしていて胸を打たれる。泳ぐ姿も圧巻で、まるで宇宙を漂うように前足も後ろ足も自在に動かして軽やか。周りにはゆったりとした愛と光の空気が漂っていて、小さな魚たちが甲羅や後ろ足の隙間に入って遊ぶ姿もまた可愛らしい。



ティファニーブルーの海でウミガメたちと戯れる 宮古島にて

今回、私の監督作品「瞽女さの春」をノミネート作品として選んでいただいたことをきっかけに、宮古島を訪れた。映画祭の翌日、穏やかな海に身をゆだねた。

沖縄本島から飛行機で南に1時間。宮古島に降り立った瞬間から、もう空気が違う。島全体が琉球石灰岩でできているせいか、海岸は真っ白で、海はあの独特の緑がかった「宮古ブルー」。空と海の色のコントラストに、思わずため息が出るほどだった。島のあちこちではブーゲンビリアが咲き誇っていて、歩いているだけで南国気分が高まる。

海のミネラルに包まれなが

ら過ごした6日間は、まさに心と体のリセットの時間。気づけば肌はつるつるになり、シミも薄くなった気がする。肩甲骨がゆるんで腕の可動域も広がり、体も軽く、ご機嫌な毎日。宮古島はただのリゾート以上に、元気を取り戻せる島だった。

宮古島では「平和な世の中」のことを「みるく世（みるくよ）」と呼ぶらしい。語源は「弥勒の世」。さらに、3・6・9は宇宙の数字とされていて、宇宙のリズムに身を委ね、無理をせず天の采配に従って動くとき、世界は自然にバランスを取り戻す——そんな考え方があった。これって、サウナで「整う」感覚にちよつと似ている。もし意識を星まで広げて整えられたなら、戦争なんて言葉すら消えて、楽園のような世界が広がるのかもしれない。

映画「みるく世ぬ御嶽（仮）」（草刈惇プロデューサー）の制作準備も始まったとのこと。なんだか島全体が大きなストーリーを描き始めているようでワクワクする。

ご協賛・ご興味ある方はぜひ一般社団法人ユーラシア国際映画祭までご連絡ください。

ユーラシア国際映画祭
<https://eurasia-film.com/>
映画「瞽女さの春」
<https://gozesa.org/>



増山麗奈近影

今回増山を海の世界に案内してくれたのは、ゲストハウス「ハッピーアイランド宮古」のオーナーMAXさん。

風の向きや高さ、天候を考えベストな海を案内、車で送迎、シュノーケリングの道具も貸してくれて7000円程度。

あなたも奇跡のウミガメ体験を!

「ハッピーアイランド宮古」

所在地：沖縄県宮古島市平良東仲宗根448-2
〒906-0007 電話番号：090-8882-8873



アリアの彼方へ 魂の行方を思いながら

東京 東久留米市

奥寺 大輔

十八世紀のドイツを生きた
カイザーリング伯爵は、不眠
に悩まされていた。あるとき
伯爵は、眠れない夜を慰める
音楽をバッハに依頼した。こ
うして書かれたのが《変奏と
アリア》である。伯爵お抱え
のチェンバロ奏者ゴールド
ベルクが夜ごと奏でたこと
から、《ゴールドベルク変奏
曲》と呼ばれるようになった。
アリアに始まり三十通り
の変奏を経て、再びアリアに
帰る。人生の円環を思わせる
構成である。

この曲は後世の演奏家達に
よって数多く解釈されてき
た。速度や音の強弱の指定が
ない分、演奏家の個性が顕著

に現れる。グレン・ゴールド
やヴィルヘルム・ケンプと
いった巨匠達の録音は今なお
聴き継がれているし、近年で
は是枝裕和監督の映画『そし
て父になる』のラストシーン
にアリアが用いられた。三の
倍数の変奏はすべてカノンで
あり、同じ旋律が時差をもつ
て重なり合う。バッハの三と
いう数字に対するこだわりが
感じられて興味深い。秩序と
多声の共存は、この世界その
ものの縮図のように響く。

昨年十二月、私のことを
息子のように可愛がってくれ
た叔父が急逝した。誕生日に
は必ずメッセージをくれた人
だった。母子家庭で育った私
にとって、叔父は父に等しい
存在だった。生まれ育った韓
国を離れ日本に住み始めたの
は十歳の頃だった。音楽に強
く惹かれたのは日本に住み始
めた頃からだったように思
う。言語が分からなくても思
いが伝わる音楽は魔法のよう
だった。日本に住み始めて十
数年が経ち、久々に韓国に帰
省した時、叔父が用意してく
れたのはコンサートチケット
だった。韓国の民謡「アリラ
ン」をバッハ風にアレンジし

た曲が演奏された。叔父との
思い出は他にも多くあるがコ
ンサートの思い出が最も印象
深い。

韓国語で「亡くなる」は
「돌아가다 (トラガダ)」と言
う。「戻る」という意味も持
つ言葉である。私はそれを耳
にするたび、死者の魂が本来
の場所へ帰っていく情景を思
い浮かべる。



ハンガリー出身のピアニス
ト、アンドラーシュ・シフは
著作の中でこう記す。

「音楽は基本的に魂の産物
であると言われています。こ
れが人間を動物と区別してい
るのです。」(「静寂から音楽
が生まれる」より引用)

バッハ弾きとして評価が高
い巨匠のこの言葉は強い説得
力と共に胸に迫ってくる。

日本が生んだ小説家・大江
健三郎も言う。私は小説の中
に自分の魂の問題を書くこと
を目指した、と。

異なる表現領域に生きる二
人の言葉は、いずれも「魂」
を核心に据えている。私はこ
の二つに出会ったとき、音楽
と文学が私のなかで共鳴し合
うのを覚えた。

バッハの作品を聴くと、生
まれてきたことそのものを祝
福されている感覚を得る。宗
教的というよりも普遍的な生
命の賛歌として、である。大
江の長男である作曲家・光氏
もまたバッハを好んで聴くと
いう。二人の芸術の間には、
目に見えぬ血脈のようなもの
が流れているのかもしれない。

とりわけ《ゴールドベルク
変奏曲》を聴き終えるとき、
私の内側に新しい何かが立ち
上がる。音楽が終わっても
尚、新しい音楽がまた始まる
予感があるのだ。三百年前の
音楽から未来を予感させられ
るとは何と素晴らしいことな

のだろう。それだけではなく
喜怒哀楽を含む人間の全ての
感情を表現しているように感
じられる。人生においても、
どのような感情であれ、その
まま抱いてよいのだと示され
ている気がする。聴き手それ
ぞれが、自分自身の変奏を奏
でればよい。バッハはそう語
りかけてくるように思える。

人生の終わりに私は何を思
うだろう。資産の多少ではな
く、むしろ誰と交わり、どの
ような芸術に触れ、どのよう
な時間を過ごしたかを思い返
すのではないか。死者の魂の
行方を思いながら、私はこれ
からも音楽と文学を精神の支
柱に据えて生きていく。もし
ていつの日か、死者と再会で
きることを願いながら。



ミラボー橋の夕焼け



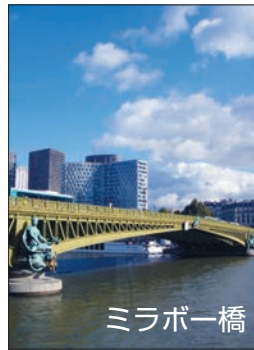
ミラボー橋の下を
セーヌ川が流れ
我らの恋が流れる
私は思い出す
悩みのあとには
楽しみが来ると

アポリネールの詩
堀口大樹訳

僕は、定年前の五年間を、最後の任地となるパリの子会社で働いた。休めるのは日曜だけ、月曜から土曜までモレーツに働き、ストレスで体を壊した。こちらは忙しいのに、労働許可を持たないかみさんは、アルバイトもできず、暇を持て余していた。高校時代、美術サークルに

いたかみさんは、暇つぶしに、イーゼル、カンヴァス、絵の具を買い求め、再び絵を描き始めた。毎週通っていた油絵教室で、たまたま、日本最員の有閑マダム・カトリヌと知り合い、友達になった。

僕は五年後、日本へ帰国し、本社を定年退職したのだが、カトリヌ夫婦との付き合いは続いていた。七十歳になって、スイスの子どもたちを訪ねた後、パリまで足を伸ばした。カトリヌが、親切にも、パリのアトリエを貸してくれたので、二週間の自炊滞在を決めたのだ。



ミラボー橋

セーヌ左岸の下町十五区にあるこのアトリエのベランダからはエッフェル塔が見え、なかなかのロケーションである。アトリエの角を曲がると、マリア・シエル主演で映画にもなった小説「居酒屋」に出てくる庶民的な店が軒を

連ねたエミール・ゾラ通りが南北に走っている。

ある日の午後、このアヴェニューを北へ向かって、のんびり散策した。すると、思いがけなく、セーヌ川岸に出た。そこからは、セーヌの中の島の《白鳥の小径》に立つ自由の女神像が望めた。エミール・ゾラ通りは、そこに架かる橋で終わっていた。

アール・デコ調の洒落たデザインの鋼鉄の橋である。袂の表示板に【Pont Mirabeau】とあるのを見て、半世紀も昔の、僕自身の失恋を思い出したのだ。

日が去り
月がゆき過ぎた時も
昔の恋も
二度とまた帰ってこない
ミラボー橋の下を
セーヌ川が流れる

女流画家・マリー・ローランサンに振られたアポリネールの詩が胸に迫った。

茜色に染まった巴里の空を、ノートルダム大聖堂の鐘の音が伝わってきた。それを聞き

ながら、僕はなんとも感傷的な気分浸っていた。

四十四年間、一緒に生きてきたかみさんを脇に置いて、初恋の人を思い出すなんて、僕はなんと罪深い男であることか。ともあれ、これをネタにした一句を、NHK全国俳句大会に送付した。



これをビギナーズブックと言うのだろう。有馬朗人氏ほか二氏が秀作に選んでくれたのだ。アポリネールとかみさんに感謝せねばなるまい（了）



銀髪の文学青年 NF

地元のサークルで知り合った宮内さんは19年も前に亡くなった兄と同じ1943年生まれ。だから彼を見ると何となく同様に文学青年だった兄の面影を重ねてしまう。

書き溜めたエッセイを『ミラボー橋の夕焼け』という300ページ余りの美しい1冊の本に纏め上げた。大変な力作である。半生をヨーロッパの各国で勤務した。その間、仕事上の悩み、国民性の違いや言葉の壁、子育てのご苦労もあったらう。

でも読後感はとても爽やかで重くない。文章もプライド高く、鼻持ちならないところがなく、とても正直。これもひとえに好奇心たっぷり、人懐っこい笑顔で人生を面白がって生きている宮内さんの真骨頂であらう。勤務を終えて日本に帰国してからは趣味に生き、家族と友と酒を愛し、ご活躍を続けている。加えて俳句も上級者だ。願わくは無理をせず、ゆつくりと歩を進めて行なって欲しい。



選挙は「その日」だけじゃない 市民の声が続く場をつくるために 選挙マルシェKOTO代表 恩田 扶美

「投票に行くだけで終わって
いませんか？」

私たち「選挙マルシェKOTO」では、選挙前だけでなく、選挙後も市民が政治に関心を持ち続けられる場づくりを目指し、2025年9月13日「参議院選を振り返る会」を初開催いたしました。※討論会は計4回実施

今回東京選挙区で当選されました7名の議員全員にご連絡させて頂き、振り返る会に向けてビデオメッセージをご依頼させて頂きました。

その内容も実に多様で、選挙戦の反省を率直に語る方、市民との対話を積極的に望む方など、7人7様の個性と姿勢がにじむ貴重な機会となりました。

これから6年或いはそれ以下の任期を担う議員の言葉を直接受け止めることで、私たち有権者が政治を見守る最初の一步にもなったと感じています。

「対話」の場をつくる意味

選挙前に開催している討論会＋交流会は、候補者の政策や姿勢を知る場であると同時に、自分自身の考えとの「ズレ」に気づく機会でもあります。政治家と市民が対等な関係を築くことができれば、後日街で再会したときに「あの政策はどうなりましたか？」などと気軽に尋ねられる関係性が生まれます。これは「民主主義の土壌を耕す営み」と私たちは信じています。

誰もが安心して語れる
「グラウンドルール」

「選挙マルシェKOTO」では次のようなグラウンドルールを設けています。

- ・対等な立場で尊重し合う
- ・人の話を途中で遮らず、お互いの意見を聴く
- ・暴力や攻撃はNG
- ・意見への賛成・反対はしても、人格否定はしない

・相手の属性や立場を決めつけたり、勝手に明らかにしたりしない

・ヘイトスピーチ・差別表現はしない

・相手の許可なく個人情報やSNSなどにアップしない

誰もが安心して発言し、安心して耳を傾けられる空間を大切にしています。私自身、もともと政治や選挙に詳しくなかったわけではありません。ただ、「語る場がない」「話づらい」という空気を少しでも変えたい。そんな思いからこの活動を始めました。



～江東区産業会館

「中立」であり続けること

運営メンバーの中には、支持する政党を持つ者もいます。しかし「選挙マルシェKOTO」

「O」は、政治的中立を堅持し、与野党を問わず、すべての方に開かれた場であること、を何よりも大切にしています。

「異なる立場の人が混ざり合うこと」にこそ意味があると考え、与党支持、野党支持、あるいは無党派派、さまざまな立場の人が同じテーブルで対話する（これこそが民主主義の根幹なのです）。

「選挙漫遊」という体験

報告会では、初回から私たちを応援してくださっている選挙ライター・畠山理仁さんの活動「選挙漫遊」も話題に。我々がマルシェのスタッフも候補者に実際に会いに行き発表しました。候補者に直接話を聴き、自分の目で見て判断する。その経験は、SNSでは得られない圧倒的な実感をもたらします。「演説を聞いて心が動いた」「挨拶したら冷たくされた」など、実体験に基づく対話が、政治を自分ごとにする契機となります。

「政治を語る」ハードルを
下げたい



選挙マルシェKOTO
<https://x.com/KOTO491453>
 メールアドレス
youthfestivalkoto@gmail.com

この5年間で8人の政治家が起訴・逮捕された江東区。この現状を変えようと、子を持つ親たちを中心に「選挙マルシェKOTO」が始動。北欧の「選挙小屋」を参考に、有権者が候補者と直接対話できる場を目指す。第1回は2024年4月21日、衆院補選前に江東区文化センター前で開催。第2回は都議補選前の6月16日にCaféくれよん、第3回は衆院選前の10月13日にもんなか がっちゃん's CAFE & SPACE、第4回は都議選前の2025年6月7日に江東区産業会館で実施。全候補者に呼びかけ、全員が参加している。

問題の根源は

どこにあるのか？

誤情報について



東京 会社経営 岡山 暁生

SNSで発信される情報には「タメにする情報」が多いので誤情報が多い、という批判がここに来て急に多くなったように感じる。特にオールドメディア（＝マスメディア）側から、このような批判が特に多いように思う。

確かにSNSの世界では、個人がどんな情報を発信できるし、素早く発信できるので、意図的な誤情報や、検証もせずに発信される情報は、劇的に増える可能性大と言えるし、実際に増えていると感じている。

でも、ちょっと待て

ならばSNSの誤情報発信を批判するオールドメディア（＝新聞・TVなどのマスメディア）は、誤情報等を発信することは全くと結論づけてもいいのだろうか？
いいや、そんなことは決し

てないだろう。

こちらもしっかりと検証する必要がある。

特に「報道しない自由」を行使する姿勢は要チェックだ。

この歳（現在82歳）になると時間に余裕があるせいか、新聞は隅から隅まで読むし、YouTubeも一通り観る。もちろんTVも観る。



しかし、さすがにXなどまではチェックしない。

スマホは使用しているが、乗り

物の中などでスマホにかじりつくことは全くない。

こういう情報との接し方をしている、オールドメディア側の情報発信内容には一定の傾向があることに、気付かされる。

意図的なのかそうでないかは別としても、日本国民をある一定の方向にリードしようとする姿勢が見えて来る。

その方向が、仮に正しいとしても、マスメディアの果たすべき役割を考えれば、やはり「偏向」と思われるような報道姿勢はまずいだろう。しかも、全てのオールドメディアの方向がほぼ同じというのは、かなりおかしい、と私のアンテナは注意信号を発するのだ。

私は、自分が判断を誤ることは自分や家族だけの問題ではなく他人にも迷惑をかけることだと思っているし、そもそも騙されるのは御免なので、どの情報が「ウソ」なのか、あるいはどの情報が「私たちを間違えた認識へと誘導する情報」なのかを見極める「眼」を持つための「学びの時間」を非常に大事にしているし、そんな生活をずっと送っている。

どんな学び方をしているか

どの情報が正しいか間違っているかを判断する、つまりメディアリテラシーを高めるには、後で「そんなはずじゃ

なかった」と言わないで済むだけの、きちんとした判断基準を身に付ける必要がある。

そのことの重要性に気付いて以来、学びの中心はごく自然に「世界史・日本史」「思想史」「経済・経済史」「政治史」になっていった。

世界は猛烈な速さで動いているし、止まることはないし、世界には様々な考えがあるし、想像を超えた欲深い人間もいるし、悪い奴もいるので、これで学びが十分だということはないと思っている。



自分の気力が続く限り、好奇心が衰えない限り、学びは続くのだろうと、今は思っている。

好奇心ということでは、せめて100年、一世紀の社会の変遷を自分の目でしっかりと見ておきたいというのもある。

そんな自分が今、

最も大事に思っていること

私たちの祖先、そして親たち世代が、何を考え何を成し遂げようとしていたのか。

まずはこのことを知り、理解することだ。

何故？って、その理由は、「民主制の場合は今の世代だけに発言権があるのではなく、前の世代にも、次の世代にも発言権がある」と考えるからだ。つまり、前の世代の発言・意思を尊重し、その中の何を受け継ぐべきかを考え、それに何を加えて次の世代へと繋ぐべきかという姿勢が極めて大事」と私は考えている。今を生きる人間だけの事情や思いで決めてしまうのは、人としてあまりに傲慢であると考えているからだ。

最後に

私たちの国「日本」には、本心に「民主制」は根付いているのだろうか？

つまり、日本国民は全員、主権者としての責務をしっかりと果たしているのだろうか？ この疑問がずっと頭から離れない。

人の景

連載
第28回

堀田 善衛

リベラルな透徹した眼で、
時の流れを見続けた作家

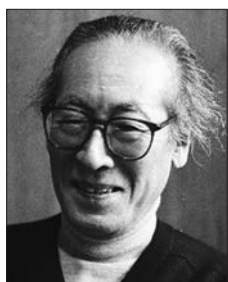
鎌倉在住 市川 隼

作家堀田善衛（1918—1998）は、丸山眞男（政治思想史1914—1996）や加藤周一（文芸評論1919—2008）等と一緒に、若い世代に影響を与えた戦後の知識人の一人として評価されている。一生活者としての透徹した眼で、事象を見据えながら作品は描かれ、声高ではない堀田の静かな声が、読者の心に響いて来る様だ。

80歳で亡くなった堀田善衛は、『めぐりあいし人びと』（1993年1月10日）の巻末の「あとがき」で、淡々と

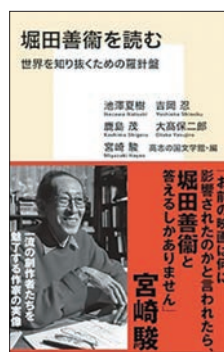
以下の様に自らを紹介している。「私は1918年生れです。私から、茫々七十余年生きて来、二十歳代の末頃から作家として仕事をして来ました。大正末期、昭和初期、戦時中、そして戦後と、現在の日本にいたるまで生きて来て、いささか世の中と世界を見て来ました。北陸の港町、金沢、東京、戦中戦後の上海、インド、中国、旧ソ連、ヨーロッパ、キューバなどに足跡があり、六十歳以降の十年間はスペインで暮らしました」

堀田の足跡は正に上記の通りだが、学生時代に太平洋戦争に巻き込まれた世代としては、稀有な人生を歩んだ作家と云えるのかも知れない。富山伏木の北前船の廻船問屋の末裔に誕生した堀田は、子供の時に自家船で日本海を渡り、ウラジオストクの街を眺めて日本の外を見る目を養い、中学生の時には金沢に出て米



堀田善衛
(1918-1998)

国人宣教師の家に下宿し、英語だけでの生活をする体験を積み、宣教師の子供に英語を教え、慶應義塾大学では法学部から仏文に移り、フランス文化に接する機会を得た。



繰り上げ卒業後、国際文化振興会で職を得、召集されたものの、肋骨骨折の胸部疾患で除隊させられ、振興会に戻り、東京大空襲の悲惨な経験を積みながら上海に渡り敗戦を迎え、徴用されて中国国民党で働き、1947年の引揚船で帰国し、世界日報社に就職し、GHQの放送局のプログラムの解説やマッカーサー声明の翻訳などに従事した。堀田の『広場の孤独』は、1951年度後半の芥川賞を受賞し、一躍脚光を浴びる事になるが、堀田の国際性が評価されて、木下順二に誘われてインドで開催されたアジア作家会議（後のアジア・アフリカ作家会議）AA作家会議（AA作家会議）に参加し、以降、AA作

家会議の日本協議会事務長に就任し、内外の作家と交友を重ねた。サルトルとも親交を深め、世間話などをする間柄ともなると本人が語っている。

『広場の孤独』では、堀田と思しき人物が主人公として登場し、朝鮮戦争、講和条約、レッドパージで荒れる世相を背景に、新聞社で働く記者たちが、知らず知らずの内に時代の流れにコミットさせられるインテリの「孤独」を描き、『方丈記私記』『定家明月記私抄』『海鳴りの底から』では、内なる古の日本を冷徹な目で描いた。『インドで考えたこと』『キューバ紀行』『スペイン断章』では、堀田の眼に映る日本の外の景色を描き、『ゴヤ』『ミシエル 城館の人』『路上の人』では、思い入れの深いヨーロッパの「明」と「暗」を描いた。

堀田にとっては、日本の内も外も、垣根など不要な、人々や路上の人々の庭であり、声高にグローバル化の時代と呼ばれながら、国家日本も、日本の内に住む人々も、

外の人々との付き合いが、相変わらず不得手な様だ。堀田は、司馬遼太郎と宮崎駿と三人で対談した『時代の風音』（1997年）の「日本の中国の国際化」の章で、自分の講演での経験話を持ち出し、「日本人が何処かへ行く事を国際化と思っておられますが、国際化とは日本の中の国際化であって、近所近在の半分が外国人になる事」と話したら、聞いている人みんなシーンとなっちゃった」と語っている。

倭寇も、中国・朝鮮に押し入った軍人達も、何時かは日本へ帰る東方から来た弱い人（東洋鬼）と見られ、現代の内なる人々が、亀が甲羅に首を竦めながら外を眺める様にチラチラ外を眺めている内に、日本社会の疲弊は足早に進んでいるが、堀田はそのような日本の今の姿を、早々と見透かしていたかの様だ。



堀田善衛の墓
鎌倉東慶寺HPより

対岸

野口 文字

同い年の友、見居代さんが亡くなった。一カ月前のことらしい。手のひらサイズの洒落た句集が届いたのが4月初旬。私は白内障の手術を終えた翌日だったが、直ぐにお礼の手紙を出した。肝臓がんの闘病中とは知っていたが、深刻な話を避け、おちゃらけた文面を書いたことが心苦しい。数日前には新茶を送ったばかりだった。

改めて句集を読み直すと、遺書めいた句が多いことに気が付く。

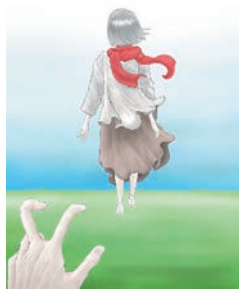
〈遠くから
呼ばるる心地水澄り〉
〈書いて消す
遺言身近し草の花〉

あとがきに、「親族を次々と失い、ただ見るために世(代)の中に居る存在かと思ひ定めて句を詠んできた」とある。俳号の由来だという。独身だったが、「未婚ではなく非婚」という句があったのを思い出した。静かだったが世

を達観した雰囲気があった。親しい仲間とはひとあじ違う人で、もう少し踏み込んだ付き合いをすればよかったと後悔する。

二年ほど句会を休んでいた彼女から、電話がかかってきたことがあった。メールのやり取りだけはしていた。ちょうど私はバスの中で、かりつけ病院に向かう途中で、予約時間がまわっていた。帰りのバスを待ちながら電話をかけると、懐かしい声が聞こえた。私も胃がんで入院し、退院したばかりだと話した。そんな話をしているうちにバスが来てしまい、電話を切った。

「会いたいね」「会おうよ」と言い合った会話が最後になった。社交辞令でなく、チャンスを作って言えば良かった。それをしなかったのは私の失敗だ。彼女は句集のタイトル通り「対岸」に行ってしまった。



編集余話

AIが注目を集める今、本誌では試みとして、14頁に掲載の松井氏寄稿に合わせ、本人の了解を得て、松井氏の原文を無料版と有料版のChatGPTに投入して添削を依頼しました。その結果生成されたChatGPTの文章を、そのまま作品として掲載しています。以下は添削後に筆者から届いたコメントです。皆様も参考にして頂ければと思います。

ChatGPTの原稿を閲読いたしました。有料のChatGPTの文章に感心しました。

節目節目にタイトルが付され、中身へ入るための心の準備ができる。

で、駄文でも読み易くなる。いいですね！これを推薦致します。

ChatGPTは凄い能力ですね。それと、中ほどに【今そこにある危機】から始まる文、これは、前段の1億分の1とは別枠で作成した文ですが、巧みに合体してくださったんですね。

また、最後尾の節「人間はもともと不完全な生き物なんです。その不完全な生き物が、やらかす行動を国民が…」この節は、権力者云々粗悪品云々の前後に挿入しようとしていた文節です。忘れないようにと後尾に書き残していた文節です。

それをうつかりそのまま送付してしまったようです。

でも、ChatGPTが示してくれた、この最後尾での未完のままの状態もエエですね。言いたいことを深く暗示し読者に考えさせる。この構成もええですね。駄文を展開していくときには、節目に導入の為のタイトルを付ける。今回は大変参考になりました。



校了直前の雑誌社は大変です。締め切り前になるとほぼ連日の徹夜状態といつていいほど、編集作業に追われます。個人の経験ながら、一時出版に携わっていたこともあり、雑誌社の「締め切り前の大わらわ」は多少理解しているつもりです。

弊誌ライフ・クロッシングは、執筆者・三田栄考氏が訴える「軍事バランスより人類恒久平和のための世界連邦建設」に賛同し、毎号標語として掲載します。ご理解ください。

さて、ライフ・クロッシング。こちらは三か月に一度の発行であり、またわずか16ページの編集なので結構楽々！と思つたら、校了前の忙しさは雑誌社と変わらない！（笑）今号は一か月早い前倒しの発行となりました。前倒しで急なお願いにも関わらず、多くの方々に寄稿して頂いたこと深くお礼申し上げます。とくに芸能界の重鎮でありながら、参議院議員に初当選されたラサール石井議員にもボランティア寄稿を快諾して頂き、改めてお礼申し上げます。

長生炭鉱問題を問う 日本人ファーストに与しない

社会民主党参議院議員

ラサール石井



山口県の宇部山口に長生炭鉱という海底炭鉱がある。いや、かつてあった。

というのは、1942年の落盤事故で、長生炭鉱は水没してしまっただけからだ。

海底炭鉱のこういった事故は「水非常」と呼ばれる。この事故では183人の犠牲者が出た。そしてその内136人は朝鮮半島出身者だった。

なぜこれほどの朝鮮人労働者が亡くなったのか。当時は中国との戦争中。とにかく石炭が必要と、いくつも炭鉱を掘ったが、焦ったせいか長生炭鉱は決められた深さより浅く掘られて作られた。だから坑道で作業中海を通るポンポン船の音が聞こえる程で、ミシミシという音もした。しまいに坑道にいるネズミがこぞって逃げ出す始末だった。だから地元日本人は怖れてそこでは働こうとしな。そこで強制連行された朝鮮人が多く働かされた。

幸いその日に炭鉱に入っていた人名は全て記録に残っていた。そこで有志の日本人が「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」を立ち上げ、遺族を探した。そしてかなりの人数の遺族を探し出し、民間の寄付で慰霊碑を作った。しかし韓国から来た遺族は「これで終わりにしないで欲しい。遺骨を故郷に返して欲しい」と願った。そこから「刻む会」の遺骨収集のチャレンジが始まる。まず埋もれてどこにあるか分からない坑道の入口、坑口を発見しなければいけない。粗大ゴミ捨て場になっていた森を掃除し、木を切り、根を抜き、ショベルカーで掘って、昨年の11月について坑口が発見された。

同時に、鍾乳洞や沈没船など横穴を長時間潜れる、日本有数のダイバー伊佐治佳孝さんが協力を申し出て、潜ってくれることになった。坑口からは崩落があつて入



山口放送・報道特集『長生炭鉱事故 遺骨収集に向けて』

れず、排気のためのピーヤと呼ばれる海に立った煙突のようなものから入る事になったが、堆積物が邪魔をする。それをひとつひとつ手探りで除去し、大きな鉄管はクレーンで取り除いた。そのためにまた莫大な費用がかかったが、これも民間からの寄付でなんとか賄った。

そしてついに、今年8月。事故現場よりかなり坑口寄りのところで、思ったよりも早く遺骨が発見された。ニュースで頭蓋骨をご覧になった方もいらつしやるだろう。執念が実った瞬間だ。しかしこれはまだ始まったばかりだった。さらに遺骨を探し、DNA鑑定で遺族と照合し、身元を特定し、返還しなければいけないのだ。これはかなりハードルが高い。幸い韓国政府は非常に前向きなのだが、問題は日本政府だ。政府には初期の段階から、調査、遺骨収集を要請して来たが、「遺骨があるかどうか分からない」「安全が担保できない」の一点張り。今回「遺骨が出たんだから局面は変わったでしょう」と聞いても何も言わない。「じゃあ、遺骨収集はこちらでやる。安全のため、まだ残っている堆積物を除去する予算を付けてくれ」と、3千万（最低でもこれだけしかかると試算した）を我々国会議員が要請しても、全く聞く耳を持たない。もう来年2月には世界中から屈指のダイバーたちがボランティアでやってくる。さらに遺族はすでに90才を超えている。もう待ったなしの状況なのだ。「刻む会」は国の決定は待たずに、また民間の寄付を頼りに遺骨収集はやるつもりだ。我々はそれまでに頑なな政府の首を縦に振らさなければならぬ。



2025年参院選立候補時

者、金守珍氏に話を持ちかけたら、二つ返事でやろうと言ってくれた。まず脚本を作り、来年にも公演しようと言は進んでいる。「刻む会」の皆様にもご協力いただける事になった。少しでも世の中の皆さんにこの事を知って貰い、少しでも応援や、寄付などのご協力をいただきたいと思います。

金さんの芝居はテント芝居だ。どこにでも移動出来る。出来ることなら、宇部山口の長生炭鉱の、発見された坑口の前にテントを張り公演したいと思っている。それが亡くなられた方への鎮魂と慰霊になつてくれなにかと願っているのだ。たしかにそつとしておいてあげたら、というご意見もあるだろう。しかし、海の底から地上に戻った遺骨を見れば、何かを訴えているように思えてならない。やはり遺族の元に、故郷に返してあげたいと思う。